

県内の遺跡・遺物59

安田城跡(昭和48年県「史跡」指定)

(遺跡所在地：阿賀野市保田)

阿賀野市とその周辺、新潟市(旧豊栄市)の一部は、中世には白河荘と呼ばれました。白河荘は上記の範囲を含む広大な荘園で、鎌倉時代の史書「吾妻鏡」には代々摂関家(近衛家・九条家)の領地と記してあります。鎌倉幕府が創設されると、関東の御家人伊豆の大見氏が地頭職としてこの地に土着しました。その後、子孫が分派して安田氏、水原氏、山浦氏を名乗り、南北朝の時代から戦国時代にかけて、白河荘はこれらの人々によって統治され、安田城は中世、安田氏の居城でした。中世末の天正2年(1574)の「安田氏給分帳」によると、家臣は109名で、彼らは与えられた土地で生活しており、近世の城下町のように領主の城下に集中してはいなかったようです。

安田氏は安田城を根拠地に自立性の強い勢力として「揚北衆」(鎌倉～戦国期に越後北部に割拠した国人豪族。揚北とは阿賀野川北岸地域を指し、阿賀北衆ともいう。)と呼ばれていましたが、上杉謙信の越後統一後は、謙信に仕え、数々の戦功をたてたといわれています。戦国期に活躍した安田治部少輔は上杉氏対武田氏による川中島の合戦において武勲があったとされ、上杉謙信から感状(通称「血染めの感状」といわれる)を受けています。慶長3年(1598)、上杉景勝の会津移封により安田氏も同行したため、代わって安田城は村上城主村上義明の支城となり、その家臣吉武右近が入城しました。その後、村上氏に代わって村上城に入った堀直奇の時代、元和4年(1622)に安田城は廃されます。寛永16年(1639)直奇の次男直時が3万石を与えられ安田藩が成立しました。直時の子直吉は正保元年(1644)居所を村松(五泉市)に移しました。

現在残る城の遺構は堀氏時代のもので、本丸の全域と南側に続く二の丸の一部が判別できます。本丸は90m×70mの長方形で、周りに幅15～20mの堀があります。本丸周辺の土塁の多くは失われ、本丸の南側に続いてカギの手に二の丸の土塁と堀の一部がわずかに残っています。



安田城付近図(明治年代更正図より)



安田城跡(北から) 写真提供:阿賀野市教育委員会

埋文にいがたNo 61

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津
93番地1
TEL (0250) 25 - 3981
FAX (0250) 25 - 3986
e-mail : niigata@maibun.net
URL : http://www.maibun.net

印刷 阿部印刷株式会社